その時、全国事務局は

情報をつなぎ、こころをつなぐ

全国障害者問題研究会 事務局長 **薗部英夫**

3月11日金曜日午前。制度改革推進本部が開かれ、障害者基本法改正案が了承された。本部長の菅直人総理は、「障害のある方も障害のない方も、ともに共生できる社会を実現する。その第一歩にしたい」と述べたという。

そして14時46分、マグニチュード9の巨大地震が東北地方三陸沖で発生した。全国事務局のある東京も大きく、何度もゆれた。

私は前日、歯の詰め物がとれてしまって、急患予約した歯科医院の待合室にいた。はじめは映画を見ているようで、建物の壁がベニヤ板のようにしなった。天井から大きなエアコンが落ちてくるのではないかと身構えた。

ケータイのワンセグで震源は東北地方と確認。都内は震度5強。電車も地下鉄もストップした。電話は通じない。歩けば1時間半ほどのところにある西早稲田の全障研事務所をめざした。

途中にある障全協事務所の安否を確認し、電動車いすの家平悟次長と合流。道行く人たちは、障害者にも子どもも連れにも、そして高齢者にも優しかった。

事務所に戻って、手分けして公衆電話から東北の主なメンバーに電話した。なかなかつながらない。でも、インターネットは動いていた。電子メールは使える！

＊

◆第一報 17:23 全国事務局電子メールニュース

宮城震度7の激しい地震です。本当に現地のみなさんの様子が心配です。

○事務所は、本が散乱し、奥にあった古いスチールの本棚が一台倒れ、壊れました。

○宮城仙台市内の鷲見支部長とは公衆電話からケータイがつながりました。怪我なく無事とのこと。停電しており、余震も強い。アパートで一人でいて、みんなと連絡がとれない。

＊

安否を確認することに全力で、巨大津波のことはリアルタイムではテレビで見ていない。正直、原発のことはほとんど頭になかった（ことの重大さを認識するのは数日後からだ）。スタッフメンバーが全員、ともかく今晩無事に自宅にたどり着ければと思っていた。

郊外に住む自分が事務所に一人泊まる覚悟を決めたら、電車が動き出したことを知った。午前2時過ぎに自宅にたどり着くと、妻は大阪に出張中で、一人で家にいた大学生の娘が抱きついてきた。

＊

◆3月12日(土)9:44 全国事務局ニュース地震情報〈2〉

○東京から宮城、岩手方面への電話はいぜん通じません。ひき続き確認中です。

○東京都内 太田修平めざす会事務局長＝四谷中学校の体育館に介助者共に避難しています。（都内は一部私鉄は昨晩遅くに復旧しましたが、JR線は今朝から徐々に回復しています）

◆3月12日(土)11:37 東北地方太平洋沖地震情報〈3〉

○青森・八戸市 阿部直俊事務局長（新井田事務局員がケータイで通話）

八戸は海岸の被害が大きいが、全く情報が入っていない。全軒停電、ガスも止まっている。障害児学校は昨日は卒業式で、保護者と一緒に帰ったあとでした。久慈、陸前高田、宮城が心配です。

○茨城・水戸市 荒川智委員長よりケータイメール

停電、断水の復旧の見込みが立っていません。震度6の水戸がこの状況ですから、東北は本当にひどいと思います。大学の研究室はめちゃめちゃ、常磐線もバスも止まっているので、移動もできません。昨晩は、大学の簡易避難所に止まりました。

○都内JR山手線内回り品川から東京間復旧。大宮—桜木町復旧。

◆3月12日(土)16:23 東北地方太平洋沖地震情報〈4〉

○岩手・盛岡市 小林昇事務局長＝お元気です!! ケータイ電話がつながりました。

盛岡市内の自宅は棚のものが落ちたくらいでだいじょうぶ。停電が続いていて、県内の様子がわからない。

インターネットがつないだ

各地の状況が不明な中で、インターネットを活用して情報をつなぎ共有しました。全国事務局からの情報は安否確認ばかりでなく、被災地の仲間や支援しようとする人びとの連携と励ましに、生きたネットワークとして力を発揮しました。

○青森　田中丈晴さんより電子メール

福島原発の爆発が心配です。放射能値が高く1年間で受けるほどの放射線の量が1時間で観測されたようです。

◆3月13日(日)13:56　東北地方太平洋沖地震情報〈5〉

○青森・八戸市　阿部直俊事務局長からメール

炊き出しが続いており、ガソリンスタンドやスーパーの近くにガソリンや食料を求める住民が長蛇の列を作っています。八戸はまだ恵まれています。ろうそくで、2夜を過ごしましたが、今朝テレビを見て、「壊滅状態」というあり得ない映像に愕然としました。原発の被爆情報も入っており、六ヶ所核燃料施設や原発をかかえる地域として大変ショックです。各地で、まさかという前代未聞の映像に胸が裂けそうです。

○兵庫　河南勝支部長からメール

阪神大震災で被災した者として、今すぐにでも何かしなければという気持ちになりますが、まずは皆さんの無事を祈るばかりです。今日は支部の総会を予定通り開催し、その中で全国事務局からの情報も伝えて、兵庫でできることを提起したいと思います。

阪神大震災の時には、被災したものはまずは情報がほしかったこと、全国からの激励がうれしかったこと、義援金をいただいて会員や障害者団体に渡したこと、障害者の被災実態を調査したことなどを思い出します。

まずは、安否状況と被害状況をあきらかにして、必要な支援をしていくことになるでしょうが、全障研としてできることを全国の力を結集してがんばりましょう。本当につらい映像を見ていると、涙が出てきます。

＊

被災者・避難民は60万人をこえていた。ケータイの緊急地震速報の音は不気味だった。東京でさえガソリンを求めて、日に日に渋滞が長く伸びた。ネオンは消え、「計画停電」はいつ起きるかわからない。「公共交通」はいつ途中で止まるか……。

そして、メルトダウンした最悪レベル7・福島の原発大事故。ベクレル？　シーベルト？の聞き慣れない言葉が飛び交い、放射能汚染される水や野菜、牛乳の不安。「ただちに健康に影響が出るわけではない」と大臣が言っても、（そのうち影響が出るってことだ）と聞こえてしまう。雨が降るのが怖かった。

でも、本当に怖いのは、原発関連の正しい情報を、日本政府も大マスコミもその後になってもほとんど明らかにしていないことだ。

日曜日の22時15分。福島市の片平史子事務局長からケータイメールが入る。

「支えてくれる人がいることが、こんなにも嬉しく、力が湧いてくることなんだと強く感じています。福島市内は現在全市断水、部分的に電気・ガスストップ。食料品やガソリンが買えない等厳しい状況ですが、みんな冷静にがんばっています。この先、もっと厳しい現実に直面している地域のみなさんの力に、どうにかなりたいと思います」

＊

被災地の中で、自分も被災しながら、必死で学校や職場を守っている仲間がいる。

子どもたちには笑顔が必要だと、大型紙芝居やカルタをつくる先輩たちがいる。

過酷な日々の中でも、ユーモアを忘れない彼や彼女がいる。

阪神大震災の時もそんな仲間たちがいた。全障研の仲間たちは、極限状態の時にも、自主的で、献身的で、あったかいとりくみができる。

なにがそうさせるのだろう。

「この子らを世の光に」、それができる社会をつくろう！と実践した大先輩たちのバトンを、次の世代は〝発達保障は個人の発達・集団の発達・社会の発達、それらを統一して実現すること〟と、理論的・実践的に発展させた。私たちはその歴史のバトンをつないでいる。

東京にいる全国事務局の私たちが、いまできることはなにか。被災現地の事実やとりくみ、おもいをできるだけ知り、全国の仲間たちにつなげ、共有しあうことだ。

そう思った。

◆3月14日(月)14:40　東日本大地震情報〈7〉

○東日本大震災救援本部を設置しました。

本日14日、荒川委員長を本部長とする「東日本大震災救援本部」を設置しました。みなさんのご支援、ご協力をこころからお願いいたします。

本部長＝荒川智委員長／本部長代理＝品川文雄前委員長（発達保障研究センター理事長）

本部員＝中村尚子副委員長、薗部英夫事務局長、圓尾博之事務局次長

①被災地の全障研関係者、障害のある人や家族への支援にとりくむ。②安否含め情報の収集と可能なかぎりの共有化につとめる。③支援募金をよびかける

＊

その日のうちから、全国の仲間たちの救援活動がとりくまれた。続々と支援カンパが届きはじめた。

全国事務局の電子メールニュース特別版は、6月15日まで43号を発信した。

被災地の仲間たちとともに生きる、長い歴史がはじまった。

（そのべ　ひでお）

全障研からのよびかけ

全国のみなさんへ　今こそ、未来に向かって

「東日本大震災」、こんな見出しを目にすることが、現実になってしまいました。

私自身も地震の際は、水戸にある茨城大学の研究棟の5階にいて、これまで経験のない激震に見舞われました。研究室はもちろんすべての物が散乱状態で、他の部屋の多くは壁にくくりつけた本棚も倒れて、手のつけられない状況でした。

当日の晩は停電・断水と余震の危険で、大学に設けられた簡易避難所に泊まりました。 学生の多くはアパートの被害がひどく、500人くらいが大学の避難所で夜を明かしたようです。

ラジオを通して、東北では水戸を上回る震度7であること、さらに津波の被害がひどいことが伝わってきます。しかし翌日のテレビで見た東北地方の惨状。あまりの衝撃。加えて、その後の福島第一原発の事故。余震の不安、犠牲者への悲しみ、原発への怒りはこれからも続きます。

この間おそらく一人でしたら、ただ困惑、落胆、絶望だけに陥ったかもしれません。しかし、大地震の当日から、薗部事務局長を通じて全国の状況やメッセージが頻繁に送られて、個人的なメッセージも沢山いただき、本当に勇気づけられました。何日か経過すると、会員から各地の状況についての詳しい報告が、続々と届くようになりました。兵庫の河南支部長が、阪神淡路大震災の時の経験を語られていましたが、このような時に一番ほしいもののひとつが情報です。

さらに感動したのは、みずから被災者でありながら、各地の子どもたち、仲間たちの支援に先頭に立って奮闘される会員の姿が伝わってくるようになったことです。また、被災地の外からもそうした取り組みへの有形無形の支援が伝わってきます。池添副委員長の「子どもたちには、どうぞ遊びと笑いを」の呼びかけは、体を温める救援物資とはまた違う、心を芯から温めるおき火のように思われました。やはり会員同士のお互いの顔が見えるメッセージ、そして実際の支え合いは、格段と勇気づけられるものです。

またこのような状況の下でも、『みんなのねがい』が被災地に届けられたことの喜びを、何人もの方が語ってくれることを、その何倍もの喜びで受け止めたいと思います。5月号、6月号では被災地のみなさんのとりくみを緊急特集します。『みんなのねがい』を一人でも多くの方に広め、届けてください。そして、たくさんの方が緊急募金に応じてくださることを訴えます。

今、全障研の会員であることの喜びと誇りを、改めてかみしめています。被災されたみなさん、全国の友、仲間とともに新たな未来に向かって、前に進んでいきましょう。

全国障害者問題研究会全国委員長　**荒川　智**

全障研は、3月14日に荒川智委員長を本部長とする「東日本大震災救援本部」を設置しました。「東日本大震災救援本部」では、次のとりくみを行います。

○被災地の全障研関係者、障害のある人や家族への救援
○安否の確認を含め情報の共有化
○救援募金

みんなの力を結集しましょう！

《今こそ、ねがいラインを》

全国障害者問題研究会『みんなのねがい』編集長　**妹尾豊広**

未曾有の大震災。マグニチュード9の大地震と大津波。被災された人々の顔、顔、顔。テレビを通してだけでも、その惨状に心が痛みます。涙が止まりません。これが夢だったらとブラウン管にこぶしをぶつけます。でも、これは、現実です。

「昨晩なんと『みんなのねがい』が届きました。23ページの「かめっこ」の笑顔ににんまり。これから出勤します。ガソリンがないから25キロの道のりは、乗り合っての出勤です。『みんなのねがい』が届いたこと、読者に配りながら声をかけあってきます」（宮城・白石の読者）

「救援物資と一緒に『みんなのねがい』が届きました。『遅れてちっと汚ぐなってるけど、いづもの雑誌が届いたから持ってきたよ』セブンイレブンのおじさんが、奥さんの作った煮物とともに避難所に届けてくれたんです。今回は無理だと思っていたのに届くなんて！　避難所で知り合った発達障害のあるお子さんの家族と知り合いになり、4月号を見せると『いい雑誌だねえ～』と褒めてもらいました」（宮城・気仙沼の読者）

被災地で『みんなのねがい』が、多くの障害者やその家族、関係者を励ますともしびになっていることに胸がいっぱいになります。

ひとりぼっちの障害のある人をつくらない。そのためには、多くの障害のある人たちとつながることが大切。これは、全障研の理念のひとつです。今、そのことが問われています。だから今こそ、「みんなのねがい」ラインに、思いを込めて多くの希望の灯りを燈していきたい。強くそう思います。

兵庫支部総会決議

2011.3.13　**全障研兵庫支部総会**

3月11日に起こった、東北地方太平洋沖大地震によって、甚大な被害が出ています。

その被害の全容すらまだつかみきれない状況ですが、すでに死者1700名以上という発表がなされています。街を根こそぎ飲みこむ津波はまるで、特撮映画をみるようですが、現実の映像ということで、声を失いました。街が壊滅したいま連絡すらとれないところや、原発の爆発も起こるなど、計り知れない被害が予想できます。

障害者の施設や作業所、学校なども大きな被害を受けていることでしょう。障害児者や家族にとっては地獄のような状況でしょう。

私たち、兵庫支部は阪神大震災を経験した支部として、何かしなければという思いでいっぱいです。阪神大震災の時には、全国からの情報発信、全国からの励ましメッセージから元気と勇気をもらいました。また、義援金を全国からいただき、被災した障害者や会員、施設や作業所にお渡ししたことを思い出します。

今、兵庫支部で義援金の訴えをはじめ、できることから会員のみなさんに呼びかけ、できるだけの支援をしていくことを決議します。